

■今月の特選句

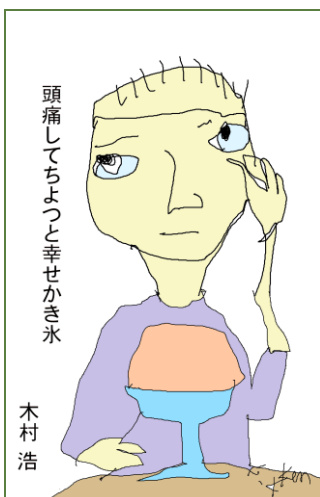
2021年9月



ねえみんなプールの帰り何食べる

谷本 宴

思い出のワンシーンだろう。会話体が素材そのものだから、場の臨場感がダイレクトに伝わってくる。余分なものがない。足りないものもない。



頭痛してちよつと幸せかき氷

木村 浩

頭痛は不幸なはずなのに、浩君は「ちよつと幸せ」と言っている。この頭痛は、いわゆる「アイスクリーム頭痛」、だろうが、固定観念を破って斬新。



ファッションや女もすててこはく時代

山田真佐子

男性の下着のすててこが、いつの間にか女性の軽快なお洒落着になって、街頭を闊歩するようになった。色柄もさまざま楽しい風景である。

■今月の特選句

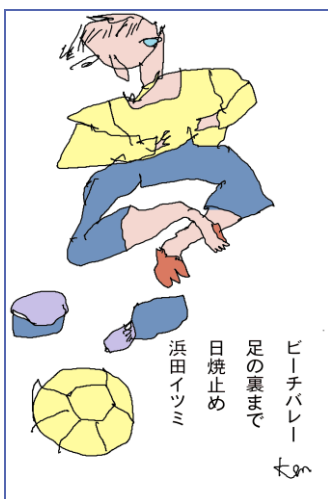
2021年9月



天文の学者気分で外寝かな

高田敏男

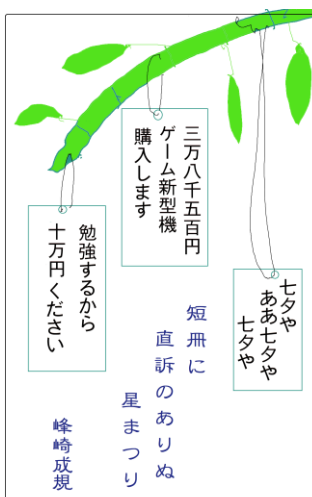
エアコンのない時代、寝苦しい夏の夜に縁側などの外で寝たりした。それが季語となった。満天の星々をつなげて図を描いていると学者の気分。



ビーチバレー足の裏まで日焼止め

浜田イツミ

弾むようにプレーしているように見えるが、実は砂が灼けて熱いからかも。足の裏まで「日焼止め」というより、「火傷止め」と言うべきだろう。



短冊に直訴のありぬ星まつり

峰崎成規

星への願いを短冊に書く。その願いは星に届けられる前に保護者が一読し、検閲を受ける。その工程をうっかり外れた短冊が笹にひらひら。